

豪雨

突然の災害

大地震

もしものとき
大切なペットのこと
考えていますか？

災害が起きたとき、ペットとともに
避難できるよう日ごろから準備としつけ
をしておきましょう。



愛知県被災動物対策連絡協議会

(社団法人愛知県獣医師会・愛知県動物保護管理協会・愛知県)

1 普段から考えておくこと。

ペットを守るために前もって確認しておきましょう。

- 〔1〕 自分の住んでいる市町村の災害時におけるペット対策についてあらかじめ確認しておきましょう。
- 〔2〕 かかりつけの動物病院を作り、飼い主が自分で応急手当などができるよう普段から災害時における治療、保管などについて主治医とよく話し合っておきましょう。
- 〔3〕 普段から近所の人や知人と災害時のペットの世話について話し合い、しばらくの間、預かってもらえる所を決めておきましょう。



2 避難グッズを準備しておきましょう。

人と同じくペットの生活用品を準備しておきましょう。

- 〔1〕 ペットフード、水、リード、ケージ（持ち運びができるもの）、器（食事、飲み水用など）、タオル、新聞紙、ビニール袋、ペットシート、救急用品（ハサミ、包帯、消毒薬、獣医師から処方されている薬、とげ抜きなど）、ペットの写真（万一ペットとはぐれたときにさがす手がかりとなります。）
- 〔2〕 ペットフードは、最低3日分は準備しておきましょう。できれば2週間分用意し、ペットフードを移しかえる場合は、賞味期限を容器に記入し腐敗しないよう保存方法に注意しましょう。



3 ペットが迷子になったときのことを考えましょう。

飼い主がわかるようにしておきましょう。

- 〔1〕 災害時には、いっしょに避難することができず飼い主とペットがはなればなれになる可能性があります。
- 〔2〕 ペットをさがすための手がかりとなる情報をペットの体につけておきましょう。

首輪に迷子札（飼い主氏名、住所、電話番号などを記載）
鑑札（犬には、かならず付けておきましょう）
※ マイクロチップをうめ込んでおく。



マイクロチップ
（長さ約12mm）

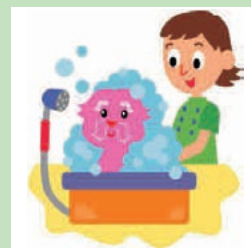


※マイクロチップについて
マイクロチップをペットの背中にうめ込んでおけば、災害などによって、飼い主とはなればなれになっても、もどってくる可能性が高くなります。

4 日ごろから訓練しておきましょう。

避難所では、お互いに気持ちよくすごせることが大切です。

日ごろから下記の点に注意して、しつけなどをしておきましょう。



〔1〕 しつけや手入れについて

ア 動物の毛は、アレルギーの人や動物がきれいな人には不愉快なものです。シャンプーやブラシなどで手入れをして清潔に保つようにしましょう。また、トイレは決められた場所で、できるようにしておきましょう。

イ 避難しているときはケージに入れておかなければなりません。ほえたり、暴れたりしないように、普段からケージにならしておきましょう。



ウ 他の動物や見知らぬ人、大きな音などに驚かないようにするため、日ごろからならしておきましょう。

〔2〕 不妊・去勢手術について

動物は発情すると、大きな声で鳴いたり、マーキング（尿スプレーなど）をするようになります。避難所でのトラブルを防ぐためにも不妊・去勢手術を受けておきましょう。



〔3〕 各種予防接種について

災害時に、ひとたびペットの伝染病が発生すると、アツという間に広がってしまいます。ペットが伝染病にかからないようにするために、定期的に各種ワクチン接種を受けておきましょう。

また、犬については登録・狂犬病予防注射を必ず実施しておきましょう。



〔4〕 食事について

避難所の食事は、ほとんどがペットフードになるため、普段からならしておきましょう。



避難所生活はせまい場所に多くの人が集まるため、人もペットもストレスを受けることが多く、さまざまなトラブルが起こりやすくなります。

動物が好きの人、きれいな人、アレルギーを持つ人もいます。

避難所での生活を少しでも快適にするようお互いの配慮が必要です。

ペットが原因でトラブルにならないよう日ごろからきちんとしつけをしておきましょう。

平常時における被災動物対策マニュアル 普及版

**編集・発行
平成22年4月**

愛知県被災動物対策連絡協議会（社団法人愛知県獣医師会内）

住所 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目7番9号

チサンマンション丸の内第2-901号

電話 052-961-3435・5844